

歴史探訪

クラブ

其の138

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

地域をつなぐ民俗芸能 「豊島の大念仏」

8月初旬、豊島町の集会所で行われた市の無形民俗文化財である豊島の大念仏の練習を取材しました。

大念仏（念仏踊り）とは、初盆の霊を供養するための行事です。もともと布教活動であった念仏が、中世以降に鉦を叩き踊る念仏踊りや盆の行事と混ざり合いました。そして、放下芸能者の踊りや地方ごとの風習が加わり、複雑に変化しながら庶民にも普及していきました。



▲市の無形民俗文化財「豊島の大念仏」（昭和40年指定）



▲鮮やかな花笠を回す子どもたち（光福寺にて）

大念仏では、子どもの花笠が特徴です。

また豊島の

「いい」とも思

いました。

また豊島の

大念仏では、

子どもの花笠

が特徴です。

大念仏は、この地方でいつから始まったかはわかりません。現在でも盛んな遠州地方や関西地方の影響も受けているともいわれ、その成り立ちはなぞです。半島のあちらこちらで行われていたようですが、明治時代から廃れていきました。続いてきた日出町でも昭和の初めに、神戸町の市場や谷ノ口、六連町の百々、高松町の一色でも昭和40年ごろには行われなくなりました。現在、残っているのは豊島だけですが、後継者不足で何度も休止しました。しかし、保存会の皆さんの熱意により、平成16年

に20年ぶりに再開を果たしたのです。

豊島の大念仏は、8月13日の夕方から、光福寺の境内を起点とし、太鼓と鉦の囃子を奏でながら初盆のお宅をまわり踊ります。

ござの上で大太鼓1、小太鼓2、鉦2（青年）、花笠6（子ども）が音頭取りに合わせて、念仏や歌枕を唱和し太鼓や鉦を叩きます。太鼓の撥はあたかも、刃物で切り裂くように鋭く、踊るように振りながら叩きます。時には飛び跳ね、ポーズを決め、激しく動きながら叩くのです。約30分間の上演ですが、何とも厳肅な空

気に包まれていきます。供養ということが第一の目的であるからでしょう。しかし私は、「なかなかカッコいい」とも思いました。

また豊島の

大念仏では、

子どもの花笠

が特徴です。

取材中、「この伝統は絶やさない」と胸を張って答えた高校生に地域をつなぐ大切さを教えられました。

※ 中世に盛んだった大道芸の一種の曲芸、踊りなどの芸能

（増山）

今月の「表紙」

▼縄文時代を体感できるシェルマよしご。吉胡貝塚資料館の、さまざまな体験講座も魅力の一つです。何を隠そう、10年ほど前に『まが玉作り』にはまったことがある私。こだわりの道具や石をそろえ、毎夜、石を削っていました。撮影で縄文空間にいたせいか、まが玉をまた作りたくなりました。…（○）

【表紙の写真】吉胡貝塚資料館（吉胡町）